



内閣府

令和3年12月24日
～美ら島の未来を拓く～
沖縄総合事務局

沖縄総合観光ポータルサイトの運用について

沖縄総合事務局が本年4月に開設した観光ポータルサイトについて、緊急事態宣言下の出張や、市町村への作業依頼に際し丁寧さを欠いた対応となっていたこと等に係る指摘を大臣等から受けたことから、今般、サイトの意義やあり方等について有識者から意見を伺い、今後の方向性を取りまとめた。

1 サイト概要

- ・名 称： 沖縄総合観光ポータルサイト（オキナワンパールズ）
- ・ねらい： コロナ収束後の旅行需要の回復を見据え、旅行客誘客の取組の一環として開設
- ・掲載内容： ガー（井戸・湧水）、グスク、史跡、戦跡、名勝、ダム、酒造所など、いまだ知られていない沖縄の魅力を発信
- ・情報量等： 収集素材4千件、サイト掲載数631件、ユーザー数3万人

2 有識者ヒアリングの結果

観光関係、市町村関係、学識経験者等の専門家15名から意見を聴取

(1) サイトの意義、在り方

- ・他サイトでカバーしていないテーマ性をもったサイトは必要。コアなサイトとしての魅力は十分にある
- ・地域の魅力を再認識する場、地域の歴史学習のコンテンツとして活用可能
- ・公的機関が運用する必要性、サイトコンセプトの明確化が必要
- ・外部関連サイトへのリンク等、外部との連携が今後の検討課題

(2) 市町村の負担軽減

- ・市町村との丁寧なコミュニケーション
- ・地元意向の尊重
- ・原稿作成に係る専門人材（学芸員等）の活用

(3) 質の確保

- ・サイトのアクセシビリティの改善が必要
- ・サイトがどれくらい利活用されているかの検証が必要
- ・掲載内容については専門家の内容確認が必要

有識者から寄せられた意見について

(沖縄総合観光ポータルサイト)

1 サイトの意義、在り方

(1)他サイトでカバーしていないテーマ性をもったサイトは必要

- ・地域住民でもなかなか分からぬコアな部分が見どころで、県民の興味関心を引き出すきっかけにもなるかもしれない。(桑江朝千夫)
- ・他サイトでカバーしていないテーマ性をもったサイトは必要。コアなサイトとして、コンテンツとしての魅力は十分にあると思う。(杉本健次)
- ・ダイナミック、華やかさに欠けることは否めないが、歴史、文化に興味関心を持つ人には響くかもしれない。(田中里沙、津田令子)
- ・観光ニーズは多様化。定番の観光地以外に、穴場的な場所を求めて観光客は訪問。サイトには一定のニーズはあると思う。(高良倉吉、東良和)
- ・一般的な観光地だけでなく、県民も行ったことがないような場所も取り上げていて、幅広い範囲での深い情報になっていると思う。(下地芳郎)

(2)地域の魅力を再認識

- ・サイトは地域の魅力、強みを再認識する場としての活用も可能と思われる。(上里隆史)
- ・地元の人にも知られていない場所は、逆に地元の人に評判になると思う。地元再発見の延長線上に観光客も来るということも意識した方がよい。(東良和)

(3)地域の歴史・文化の承継

- ・子供たちの自由研究や、地域の歴史学習に役立つコンテンツを提供するような活用も可能と思われる。(上里隆史)
- ・修学旅行の素材や一般観光客の新しい情報元にもなると思う。(杉本健次)
- ・サイトは、失われつつあるものを残し、伝えるという役割もあるように思われる。(高良倉吉、島田勝也)

(4)サイトの課題

- ・公的機関がなぜこのサイトを作るのか、説明が必要だと思われる。(越智正樹)
- ・どのような層をターゲットにしているのか分かりづらい。(平良朝敬、有木真理)
- ・誰のために何のために、何を目指して作るのかを明確にして、コンセプトとルールに則った取材や記事を求める人に届くようにすることが重要。(開梨香)

- ・情報発信に先立ち、サイト運用におけるルールと訪問時の心得等のルール整備が必要。(開里香)
- ・沖縄物語(OCVB 運用)の棲み分けというのが難しいと感じた。歴史、文化、自然に特化したサイトとして存在するのであれば、もっと全面に出してはどうか。(有木真理)
- ・県市町村、関連企業等の外部サイトにリンクを貼るなど、外部との連携が今後の検討材料だと思う。(下地芳郎)
- ・極めてコアなサイトとして、埋もれないコンテンツとしての魅力は十分にあるので、リンクなどを増やし、お客様が見る機会を増やすことへの対策は必要だと思う。作るのと同じくらい、告知に力を入れるべき。民間の力を借りても良いのでは。(杉本健次)

2 市町村の負担軽減等

(1)専門人材の活用

- ・市町村の負担軽減、質の確保から、サイトの原稿作成は、専門人材(学芸員等)を活用してはどうか。(上里隆史、島田勝也、開梨香、田中里沙)

(2)市町村への丁寧な説明

- ・スケジュールがタイトだったり、作業が煩雑だったりすると継続も難しい。丁寧にコミュニケーションを取りながら進めてほしい。(桑江朝千夫、宮里哲)
- ・今後のサイト運用については、改善点や今後の進め方について、市町村等へ説明し、理解を得て自前の運用を続けるか、他機関へ譲渡するしかない。移譲の際は、サイトへの思いをしっかり引き継ぐ必要がある。(島田勝也)
- ・市町村によって協力度合に差があると思うが、協力してもらえる市町村を優先してサイト掲載を進める事が大事。(津田令子)

(3)地域の意向の確認

- ・一旦サイトに掲載され、人々に注目されると、後から入域制限をかけようとしても困難。掲載にあたっては、市町村はじめ、地域の意向を十分に確認する必要がある。(高良倉吉、下地芳郎、平良朝敬)
- ・コンテンツの文章について、地域ならではの文言や言い回しがあったりするので、市町村の話をよく聞いてほしい。(桑江朝千夫)
- ・拝所や聖域などは、特定の時期や特定の人しか行けないような場所もある。このあたりについて、しっかり地域の意向を確認する必要がある。(宮里哲)

3 質の確保

(1)専門家の活用

- ・歴史、民俗、自然など、専門家に掲載内容を確認してもらう必要があると考える。(津田令子、島田勝也、開梨香)
- ・文章をライターに作成させる場合は、なるべくその地域の歴史的な背景も熟知している方に依頼するのが望ましい。(越智正樹)

(2)サイトのアクセシビリティの改善

- ・現状はアーカイブのような形で情報が羅列している状態で初心者が使いこなすのは難しい。推奨コースの紹介など、簡単にアクセスできる仕組みが必要。(上里隆史)
- ・エリア別の案内マップがあつたら便利。利用者目線で見やすく分かりやすく、訪れてみたいと思わせるような見せ方の工夫は必要と思う。(與座嘉博)
- ・ガード(井戸・湧水)や御嶽など、言葉の意味や解説が必要。言葉の意味や歴史的背景等の理解が深まると、さらに興味関心がわく。(上里隆史)
- ・各エリアの全体的な歴史の紹介があつて、各コンテンツがあるというように、誘導の工夫が必要。(越智正樹)
- ・一人旅、自然に触れたい、琉球文化を楽しむなど、どういうシーンを楽しむかといったカテゴリで整理するのもよいと思う。(有木真理)
- ・サイト情報は繋がりと広がりが少なく、辞書的に感じる。(下地芳郎)

(3)サイトの効果測定

- ・サイトへの要望、満足度など、市町村アンケートの実施や、コミュニケーションの専門家に満足度を検証してもらうのもよい。(島田勝也、田中里沙)
- ・アクセスログを解析し、訪問者の属性を把握することも必要だが、サイトの訴求対象とする人たちから、意見、感想を聞くことが重要ではないか。(開梨香)

4 その他

(1)情報発信の工夫

- ・検索結果連動広告やSNS活用、写真コンテストの開催などの工夫が必要。(田中里沙)
- ・一般への認知度が低いと思われる。周知方法を工夫した方がよいと思う。(與座嘉博)

(2)テーマ性、ストーリー性のある情報の発信

- ・沖縄総合事務局では、過去にダムなどインフラ施設を観光するインフラツーリズムに注力していく、評判良かった。局ならではの情報発信を期待。(下地芳郎)

- ・エッグ岩は、ペリー一行が金武に来たとき、岩にある海鳥の卵を見て、エッグと言つていてことに由来するとの逸話がある。観光客はストーリーを求めてやってくる。(高良倉吉)
- ・県内酒造所では、地域との繋がりや歴史などのヒストリーを語れる酒造所がある。コンテンツは、ストーリー性を持たないと魅力に欠けてしまう。(與座嘉博)
- ・掲載基準を作成し、何をどこまでやるか方針を決めるといいと思う。(下地芳郎)

(3) 双方向のコミュニケーション

- ・マニアックな観光資源については、地元ガイドなどの詳しい人にチャットで問い合わせできる等、コミュニケーションがとれる仕組みがあると、集客にもつながるし、ガイドの収入源にもなる。人材の掘り起こしも出来ると面白いと思う。(東良和)

(4) 掲載内容の充実

- ・伝統行事、伝統工芸品、伝統芸能についても掲載してはどうか。色味が少し地味なので、花などの季節ものを掲載してはどうか。(平良朝敬)
- ・地域貢献と関係人口を増やしていくためのサイトであるという存在意義をもっと前面に出す。その上で見せる側と見る側双方でコミュニティーを図れるサイトにすれば活きたものになるのではないかと思う。(越智正樹)
- ・酒造工場のサイト内の掲載数が少ないように感じるので是非、増やして欲しい。県内で47箇所はあると思う。(與座嘉博)
- ・県内各地の博物館、資料館を一覧で紹介しているサイトが存在しないので、当該情報の掲載を検討して欲しい。(上里隆史)
- ・宿泊施設、食も観光資源なので掲載してはどうか。食事については「琉球料理」にフォーカスし食文化の発信をするといいと思う。(平良朝敬)
- ・コース設定や所要時間が表示される機能があると観光客の動機づけにもつながると思う。(平良朝敬)
- ・参考文献や出典等についても明確にしておくと良いと思う。(桑江朝千夫)
- ・サイト上で歴史、文化など訪れたスポットをチェックし、ステータスが上がって楽しめるといった仕組みがあれば、リピーター獲得にもつながるのではないか。(有木真理)

(5) 他機関との連携等

- ・観光協会との関わり方も重要。まち歩き事業への活用も有効だと思う。(與座嘉博)
- ・観光庁、JNTOとの連携、大学の民俗学の先生や各市町村の学芸員など、一緒に連携してくれる人を掘り起こすことも大切。(津田令子)
- ・多言語化は必要。少子高齢化や人口減少で国内観光客の拡大が見込めない中、海外

へ目を向けないといけない。特に欧米は歴史・文化に興味がある人が多いため、そこへのアプローチは重要と考える。(宮里哲)

- ・立入禁止や駐車場がないことなどの情報をきちんと伝えることも大事(有木真理)

(6)サイト名称(沖縄総合観光ポータルサイト)

- ・サイトの名称から歴史や文化に特化しているサイトだと分かるような形にし、差別化を図ってはどうか。(宮里哲)

- ・サイト名称と掲載内容が合致していないと感じるところがあるので、観光の名称を外したほうがよいと思う。(開梨香)

- ・沖縄総合観光ポータルサイトという名称の割には総合力が乏しい気がする。総合と称しているからには MaaS 的な仕組みもないといけないのでないのではないか?(東良和)

※MaaS (Mobility as a Service) : 地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。

- ・オキナワンパールズという名称が、設定しているターゲットに届く名称になっているのかを改めて考える必要があるかもしれない。(下地芳郎)

- ・サイト名称について、「観光」というワードがないと検索してもヒットしない。サイトを広めるためにもまずは間口を広くしておくことが必要かと思う。(津田令子)

(※肩書・敬称略)

ヒアリング対象者一覧

(観光関係(5名))

- 下地 芳郎 沖縄観光コンベンションビューロー会長
杉本 健次 株式会社 JTB 沖縄代表取締役社長
平良 朝敬 沖縄県ホテル協会会長
東 良和 沖縄ツーリスト株式会社 代表取締役会長
與座 嘉博 日本旅行業協会(JATA)沖縄支部長

(市町村関係(2名))

- 桑江朝千夫 沖縄県市長会会長(沖縄市長)
宮里 哲 沖縄県町村会会长、沖縄県離島振興協議会会长(座間味村長)

(学識経験等(8名))

- 有木 真理 リクルートライフスタイル沖縄代表取締役社長
上里 隆史 歴史研究家・地域活性化伝道師
越智 正樹 琉球大学国際地域創造学部観光地域デザインプログラム教授
島田 勝也 沖縄大学地域研究所特別研究員
高良 倉吉 琉球大学名誉教授
田中 里沙 学校法人先端教育機構事業構想大学院大学学長
津田 令子 トラベルキャスター 旅行ジャーナリスト・旅行作家
開 梨香 株式会社カルティベイト代表取締役社長

(敬称略・五十音順)

(4) その他

- ・積極的な広報
- ・訪問者の書き込みなど双方向でやり取りができる仕組みの構築
- ・関係機関との連携

3 今後の方向性

(1) まとめ

- ・サイトは県内 41 全市町村をカバーする。国が市町村と連携して構築することで、観光振興、市町村支援のツールとして、大いに活用し得るものである。
- ・有識者ヒアリングでは、サイトについて一定の評価やその有効活用を求める声があった。他方、市町村の負担軽減、サイトコンセプトの明確化、アクセシビリティの改善、積極的な広報などが課題であるとの声があった。
- ・有識者の意見を踏まえ、観光の質的向上のみならず、地域の魅力の再認識による地域活性化の観点にも立ち、次の点を改善し、沖縄総合事務局で継続して運用していくこととした。

(2) 改善点

- ・市町村との丁寧なコミュニケーション
- ・地元意向の尊重
- ・余裕をもったスケジュールの設定
- ・原稿作成における専門人材（学芸員等）の活用
- ・サイトのアクセシビリティの改善
- ・関係機関との連携と積極的な広報

(3) 今後の予定

- ・利便性の向上を図るため、ウェブ上にある多くの情報から必要としている情報を簡単に検索し、探し出せるようなサイトとなるよう、工夫を重ねていきたい。
- ・サイトの名称やサイトがどれくらい利活用されているのかという検証など、サイトの運用状況を見つつ定期的に有識者から意見を聞き、改善を図っていくこととした。

お問い合わせ先（内閣府沖縄総合事務局）

- ・沖縄総合観光施策推進室（齋藤、古謝） 電話：098-866-1812 FAX：098-860-2369
- ・沖縄市町村施策支援室（波平、棚原） 電話：098-866-0047 FAX：098-860-1025